

# アヴェ・マリア

はまでらきょうかい はやし ひでき  
カトリック浜寺教会 林 英樹

せいぼ ぞくせ けんめい い じよせい かみ い かみ おんちよう み おとめ  
聖母マリア、俗世で懸命に生きた女性、いつも神とともに生き、神の恩寵に満たされた乙女。  
あなたの信仰心を私 たちにも与えて下さい。母マリアよ、あなたはいつも讃えられ聖とされますように。

せいぼ む よ わ すうはい すうけい  
聖母へどのように向き合えば良いのか分からなかった。崇拜ではなく崇敬？では、どのように  
いの よ かいが なか せいぼ すがた ほせい あふ そうねんき わたし はは  
祈れば良いのか。絵画の中の聖母の姿は母性には溢れるが、壮年期の私の母としては  
わか  
若すぎてじっくりなかった。

きょうかい はじ い ひ じよせい ぞう まえ は あらわ わたし み  
教会に初めて行った日、その女性はマリア像の前を掃いていた。ふらっと現れた私を見て、  
かのじよ かみさま つ き い たぶんちが おも い わたし  
彼女は「神様があんたを連れて来てくれた。」と言った。「いや、多分違うと思います。」と言う私  
に、信仰生活80年の彼女は、「神様は本当にいるんやねえ。」と言って涙を流した。

はじ じよせい わたし つ かのじよ れいめい かのじよ  
初めてのミサからいつもひとりの女性が私に付いてくれた。彼女の霊名はマリアだった。彼女  
の横で私は、ミサの次第と聖歌を覚えた。「マリアさまのこころ」をはじめ、どの聖歌も私は照れ  
ることなく、大きな声で歌えるようになった。

ミサのあとにはひとりの女性とよく話しをした。彼女の名もマリアだった。彼女は信仰について  
のたくさんの本や映画、講座などを教えてくれた。分かち合いや勉強会にも連れて行ってくれた。

かのじよ べつ あ しつぎよう  
彼女はあるミサのあと、別のマリアに会わせてくれた。そのマリアは失業してぼろぼろだった  
わたし のために、その場で祈ってくれた。嗚咽を抑えられない私に、彼女は「神様がこころに触れら  
れると涙が出るのよ。」と言った。

べつ わたし じぶん むすこ い ひと しょうかい  
また別のマリアは、私のことをいつも自分の息子だと言って、たくさんの人に紹介してくれた。  
み あたらし じごと なつとく なや わたし かのじよ なん  
見つかった新しい仕事に納得できず悩む私に、彼女は「あんたやったら何でもできる。ええから、  
しごと い つよ せなか お  
仕事をしなさい。」と言って、強く背中を押してくれた。

きが つ わたしじしん れいめい いただ しぜん のぞ  
気が付けば、私自身の霊名にマリアを頂くことはもう自然な望みとなっていた。

わたし う そだ じつぼ さい す ちち いっしょ せんれい う な おそ おお  
私を生み、育ててくれた実母は 80歳を過ぎて、父と一緒に洗礼を受けた。その名は恐れ多い  
と言っていたが、洗礼の日に彼女もマリアの名を頂いた。

じしん おんはは わたし あた くだ しゆ せつ かた わ す  
ご自身の御母を私にさえも与えて下さった主イエスは、接し方が分からないなどと、拗ねる  
わたし まなざ む いつく さと くだ ま わたし  
私のこころに眼差しを向け、慈しみをもって、ゆっくりと諭して下さい。いつの間にか、私は  
ちゆうちよう はは わたし いの くだ せいぼ い  
躊躇なく「母よ、私のために祈って下さい。」と、聖母に言えるようになっていた。